

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・携帯電話の買換えやプランの見直しが増えてきている。
		パチンコ店（店 員）	販売量の動き	・景気が底を打ったのか、売上が若干上向いてきている。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・前年同様に降雪量が少なかったため、客の動きは良かった。1件当たりの契約金額は減少しているが、契約件数は増えた。
	変わらない	百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・客から買物意欲の向上が多少感じられるものの、依然として生活防衛の意識があるため、財布のひもを緩めるまでには至っていない。お買い得品や必要なものしか買わない状況が続いている。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・婦人服の売上は前年の95%である。決算に合わせた催事やバーゲンなどを実施したが、冬物は暖冬の影響もあり不発に終わった。春物の早期導入を図っている。
		自動車備品販売 店（従業員）	来客数の動き	・買上単価自体は前年並みであるが、集客は前年から上昇傾向となっている。買い控え傾向は続いているが、車種によっては新規顧客が増加している。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・個人客を例年の実績まで確保しようとする、単価を20～30%下げなくてはならず、売上の確保が厳しい。
		都市型ホテル （スタッフ）	単価の動き	・利用客数はほぼ前年並みとなったが、客単価は前年を下回っている。特に夜の客の減少傾向が続いている。
		都市型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・宿泊を除いてレストラン、宴会の売上は順調に推移している。
		旅行代理店（従 業員）	お客様の様子	・旅行企画の提案案件に増減は見られない。
		通信会社（役 員）	販売量の動き	・アナログ放送からデジタル放送への移行が多様なメディアで宣伝されていることも追い風となり、ケーブルテレビの新規契約数は着実に伸びている。
		美容室（経営 者）	来客数の動き	・来客数の減少傾向に歯止めが掛からない。
		住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・見込み客数が増加していない。
	やや悪く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・通行量調査によると、米国発の金融危機以来、当商店街の通行量は平均で1割程度減少している。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・客の購買意欲の低下が著しい。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・人通りが極端に少なく、道路も恐ろしいほどすいている日がある。外出をできるだけ控えて、家で過ごす時間を多くする傾向が強くなっている。
		一般小売店〔事 務用品〕（営業 担当）	単価の動き	・客の動きは例年と比較して鈍く、販売単価、売上高の悪さが目立つ。客も購入商品を厳しく吟味している。
		一般小売店〔書 籍〕（従業員）	単価の動き	・客の目が厳しく、商品を価格、質などあらゆる面から比較しており、その影響が特に客単価に表れている。
スーパー（店 長）		お客様の様子	・1か月や1日平均の来客数は前年を上回って推移しているものの、特売日やポイントサービスデーなどに集中しているため、これらの日以外は極端に減少している。	
スーパー（店 長）		お客様の様子	・食品部門では来客数は前年並みであるが、1人当たり買上点数が減少傾向である。衣料・住居関連部門では依然前年に比べ大きく落ち込んでいる。当地では大型店の進出等があり、競争が激化している。	
スーパー（営業 担当）		単価の動き	・来客数、買上点数は前年並みを維持しているが、1品単価の下落により客単価が低下傾向にある。	
コンビニ（経営 者）		単価の動き	・来客数は微増が続いているものの、客単価は2か月連続で前年割れとなった。客は安い商品を購入する傾向が強まり、客単価は更に低下している。	

	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・出勤前に立ち寄る常連客は、買上点数が減少し、1人当たり単価も落ちている。
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・売上は引き続き前年比10%以上落ちており、厳しい状況が続いている。
	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・2月の新車販売の状況は、前月の受注残が比較的多かったため、登録件数では受注台数を上回っているものの前年比では84%程度である。しかし、売上の先行指標である新車の受注台数は前年比68%と極めて悪い。
	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・来客数を始めとして、厳しい状況にある。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・工場からの需要は約2割減と急速に落ち込んできた。
	その他専門店 [医薬品]（営業担当）	販売量の動き	・既存店舗平均で1人当たりの買上点数が5.4点から5.3点へと減少している。
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・1月中旬以降、来客数が落ち込んでいる。外食から内食に変化しているためか、ディナータイム及び土・日曜日で減少が見られ、製造業等における勤務シフト縮小の影響から深夜でも減少している。またランチタイムでは、客単価の安い店舗やコンビニ弁当に客が流れている。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・売上、宿泊人数、宿泊単価は、前月から回復しているものの、前年割れ傾向が続いている。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・出張や旅行の見直しが一段と厳しくなってきた。元気があるのは料金の安さが売り物の旅館だけである。
	その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・景気の悪化も影響し、新規入会者数が減少している。これに伴い会員数が減少し、売上高の減少につながっている。
悪くなっている	一般小売店[鮮魚]（従業員）	販売量の動き	・12月までは悪いながらもそれなりに推移したが、1、2月は目に見えて売上が落ちた。宴会、外食が急激に減ってきている。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・時間帯別の売上をみると、特に会社帰りの客を含め15時以降の来客数が減少している。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・入・卒園や入社などのセレモニーを控え、ファッション需要が増える時期であるが、今年は非常に小さい。従来は、洋服、バッグ、靴などまとめ買いをする傾向が見られたが、今年は、そのうちの1点を購入するか、何も購入しないかのいずれかである。ファッションに対して財布のひもは依然固い。
	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・来客数が減少し、購買確率が低下してきた。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・客は本当に必要な物、チラシに掲載されている安い商品だけを買っている。
	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・前年の秋以降、衣料品の売行きが低迷している。客は生活に欠かせない食品、日用品は購入しているが、その他の商品は買い控えている。
	スーパー（副店長）	単価の動き	・来客数は前年比88%、客単価は同96%で前年割れが続いている。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・製造業における休日増加により、朝の通勤時間帯の来客数が前年末と比べ30%減少し、客単価も同40%減少し300円台となった。たばこ1つを買い求める客が大幅に増加し、ついで買いの客が全く見られなくなった。全体として、2月の売上は販促費を多く使ったにもかかわらず、販促費を使わなかった前年に比べ5%減少している。
	コンビニ（店長）	それ以外	・近隣に競合店が開店した影響が大きく、またタスポ効果も薄れ、売上は急激に落ち込んでいる。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今季は雪が降らず暖かかったが、来客数が伸びず、売上が前年比10%の減少となった。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・土・日曜日を含め、来客数の減少が続いている。
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・来店客は将来的な購入を検討しているが、非常に慎重になっている。また、今まで以上に値引き要求が厳しい。

	家電量販店（店長）	お客様の様子	・得意先の子会社が解散・合併するなどの動きがあったため、売上が減少している。	
	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・相変わらず自動車関連の不況報道にブランド、グレードを問わず振り回されている。商談も模様眺めで前進せず、結果的に成立しない場合が多い。	
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・受注に伸びがない。年初は前年比20%程度の減少であったが、最近では40～50%減にまで落ちている。低炭素車普及促進税制案の影響により、最大の需要期である2～3月の受注も4月以降にずれ込む懸念が大きい。また、この税制案も話題にならないほど、受注は低調である。	
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・経済環境は極めて悪化し、車の販売台数はますます減少している。全く底が見えない状況である。	
	住関連専門店（店長）	単価の動き	・来客数は前年並みであるが、買上客数、客単価、1品単価がダウンし、全体の売上を落としている。客は安い商品でも慎重に選んでいる。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・消費者は無駄な物は一切買わないため、商品が動かない。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・常連客の中でも団体の2次会が全くなり、売上は例年の7割弱となった。「この2、3か月の資金不足が大変である」という客の話が聞かれる。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・建設関係を中心に倒産が相次ぎ、夜の街は週末でも閑散としている。当地ではイベントが開催され、人出は前年より多かったようだが、節約のためマイカーでの来場が多くなった。また、失業者がタクシー会社に入社するケースが多くなり、1台当たりの売上が減少し、売上確保のために長時間労働となっている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・売上が前年割れとなっている。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・個人、グループ、一般団体、企業団体の動きがいずれも鈍くなっている。特に、海外からの観光客は前年の5割程度の水準で推移している。個人の落ち込みが少ないため、全体では前年の2割弱の減少にとどまっているものの、団体客は年度末を控え、キャンセルや規模縮小により大幅に減少している。	
	競輪場（職員）	単価の動き	・2月の1人当たり購買金額は今年度最低であった。	
	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・着工件数が減少し続けているなか、価格の値下げが目立つようになってきた。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・リフォーム展示会への来場者は見られるが、新築の展示会では少ない。	
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・製造業の生産調整や建設業の事業停止が多く見られ、個人消費が落ち込んでいる。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	-	-	
	変わらない	司法書士	取引先の様子	・会社の廃業や解散が多い。
	やや悪く なっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・原料高騰の影響を緩和するため前年秋に値上げを行ったため、売上高は前年に比べ増加しているものの、徐々に受注量の減少傾向が見えてきている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・悪い時期が続いてきたが、ここに来て生産調整にまで追い込まれてきた。
	電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・1、2月の受注が約7割減少している。3月の受注は更に下回っている。	
	税理士（所長）	それ以外	・輸入関連や、すき間産業で、ビジネスチャンスを見つけている一部の中小企業で良くなりつつある。しかし、製造業の一部、大手の下請などでは業績が急速に悪化している。	
悪く なっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・輸出関連及び自動車関連の受注が大幅に減少している。また、ユーザーの期末在庫削減の動きもあり、受注環境の厳しさが増している。	
	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・衣料関係では春夏物が小ロット対応に追われている。また非衣料では車両関係が1月以降、受注半減の状況が続いている	

		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・90円台の円高が続き、海外からの受注が止まっている。特に米国では在庫が減らず受注が出ない状況にある。内需も自動車産業の低迷により受注が止まっている。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・建設会社の倒産が多く、中には売上高がピーク時の6分の1まで減少している企業もある。これだけ公共事業が減ると、地方の大手、中堅業者は、所帯が大きい分だけ経営破たん確率が高くなっている。
		建設業（総務担当）	それ以外	・輸出企業を中心とした製造業で設備投資計画を凍結することが多く、同業者からの見積依頼件数が激減した。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・物が売れないため、商品の動きが鈍い。生産工場では在庫を抱えたままの状態、物流の動きが悪くなっている。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・荷動きが急激に悪くなっており、明るい兆しが見当たらない。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・前年の暮から、製造業を中心に減産傾向が強まっている。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・個人、法人共に不動産取引の動きがない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・出稿チラシのサイズダウンが相変わらず続くなど、売上高は前年に比べ15%のマイナスである。競合他紙もマイナス幅が拡大しており、ここ数か月はどこまで落ち込むか分からない。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年と比べて、求人数が4割程度落ち込んでいる。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新規の人材需要は皆無に等しく、すべての業種で人材需要が落ち込んでいる。加えて、更新による利用がなく、中途解約の件数も増えてきている。
	悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年明け以降、派遣社員を増員する企業はほとんど見られず、雇止めだけが目に付く。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・週刊の求人情報誌1回当たりで比較すると、3か月前に比べ求人件数が平均で100件以上少なくなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・2月の広告売上を見ると、前年の5割でしかない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求職者数の動き	・新聞の求人広告掲載数が減少を続けている。ハローワークの求人票も年明け以降激減している。合同企業説明会に参加する企業数も減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が大幅に減少している。特に、製造業では前年に比べ半分以下となった。一方、新規求職者数は、事業縮小、廃止や非正規社員の雇用契約解除等による事業主都合離職者で大幅に増加している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・雇用維持にかかわる助成金の相談、届出件数が急増している。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人に関して紹介・派遣共に全く低調である。さらに派遣切りが拡大している。